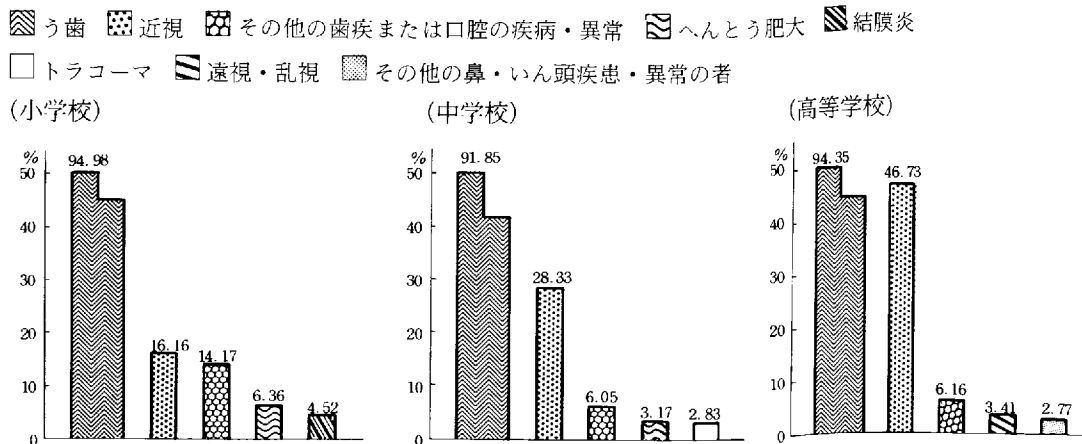


って高くなる。う歯、近視、その他の歯疾または口腔の疾病・異常に次いで被患率の高いのが、小学校においては、へんとう肥大、結膜炎、中学校においては、へんとう肥大、トラコーマ、高等学校においては、遠視・乱視、その他の鼻・いん頭疾患・異常である。

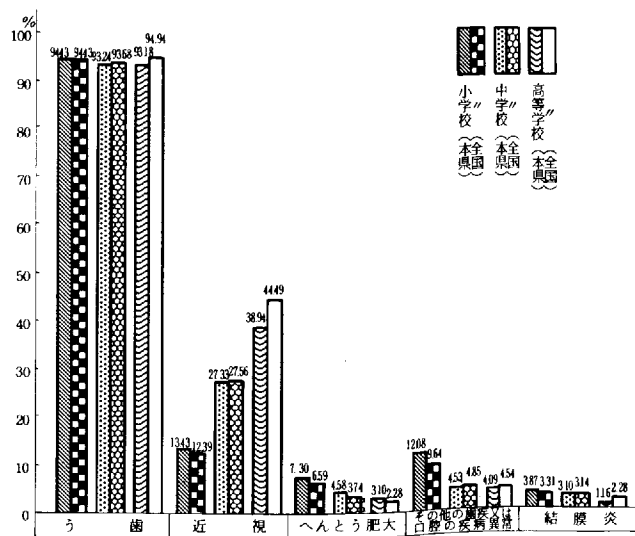
図4-2-2 学校種別による主な疾病・異常



注：1. 「学校保健統計調査報告書」(昭51)による。
 2. 「その他の歯疾または口腔の疾病異常」とは、う歯以外の歯疾、例えば口内炎、歯ぎん炎、歯そうのう漏、不正こう合等の疾患である。

本県と全国の児童生徒の主な疾病・異常を比較すると、図4-2-3のとおりう歯及び近視の被患率は、学校段階が進むのに伴い、全国平均を下回っている。へんとう肥大の本県の被患率は、各学校種別ともに、全国平均を上回っている。その他の歯疾または口腔の疾病・異常の被患率は、小学校において、全国平均を上回るが中・高等学校においては、下回っている。結膜炎の被患率も、小学校においては、全国平均を上回り、中・高等学校において、下回っている。

図4-2-3 本県と全国の主な疾病・異常の比較



注：「学校保健統計調査報告書」(昭50～昭51)による。

従って、今後は、児童生徒の疾病・異常を予防するため、学校、家庭及び学校医等の関係機関との連携を深め、保健管理及び保健教育の充実を図る必要がある。